一中だより

４月特別号
令和２年４月１４日
小平市立小平第一中学校

■「誠実であれ」～生徒の皆さんへ　　**校長　栗林昭彦**

三月から続く臨時休校も八週目に入りました。予定どおりGWあけに学校を再開できるのか予断を許さない状況の中、本日ようやく教科書を渡すことができます。こうして一週遅れで新しい教科書を手にすると、普通に学校に通い、友達と一緒に勉強することが皆さんにとってどれだけ大切なことだったのか、改めて気づくのではないかと思います。

さて、最低でもあと三週間休校は続きます。そのうえ緊急事態宣言以来、私たちを取り巻く状況もさらに厳しいものになってきている。こんな状況下で、生徒の皆さんにどんな言葉をかければいいのか、この間ずっと考えていました。

私がいま皆さんに言いたいのは「誠実であれ」ということです。この感染症の流行が収まるようにするため、その後の生活を順調に再スタートできるようにするため、いま私たちができること、それは自分のやるべきことに誠実に向き合うことなのではないか。たとえば長い自粛生活に飽きて、「少しぐらいいいか」と遊びに行ったりするのは、感染症に立ち向かう誠実な姿勢とは言えない。昼夜逆転したり日がなスマホを眺めていたりする生活は、中学生としての生活に対して誠実に向き合っているとは言えない。かつて経験のない困難な状況であればこそ、私たちは基本に立ち返って、自分の役割に誠実に向き合う人間でありたいと思います。そのことが中学生である皆さんが、この困難な状況を克服するためになしうる最善のことなのではないか。この間ずっと考え、そんなことを伝えたいと思いました。

■マスクについて

新入生への案内に「マスクは原則白色のものを着用します」と記しました。本校ではこの感染症騒ぎが起きる前に、街中で時折見かけるような黒色などの色付きマスクは、「おしゃれ」の要素が強いものと考え、指導をしてきました。ただ現在の全国的にマスクが品薄の状況下で、たとえ「原則」であっても制限をつけることは適当ではないと考えました。従ってこの感染症にかかる騒ぎが終息し、社会が落ち着いた状況になるまで、マスクの色について特段の制限を設けないこととします。

■休校期間を活かす

長い休校期間を経て学校が再開した時、この期間をどのように過ごしたかは大きな差となって現れるであろうことは当然予測できます。それでなくても、学力の二極化が問題になっているなか、さらに深刻化させる事態が予測されます。本日学年ごとにまとまった量の課題を出しました。辟易している生徒もいるかもしれませんが、生活リズムを保つためにも計画的に実施をさせたいところです。

さらにこの期間を活かしてその後の伸びにつながる取組の例を二つ紹介したいと思います。

まず、家事能力の向上を図ること。中学生の生活力の低さは年々深刻化しています。給食の配膳や清掃のようすなどを見ていると、目を覆いたくなるような生徒も散見されます。家事は段取りを考えたり、次に使う人の使い勝手を配慮したり、結構頭を使うものです。従ってこの間に家事能力の向上を図っておくことは、ある意味一石二鳥です。朝起きて、朝食、清掃、洗濯、ゴミ捨て、献立作り･･･ひと通り全部やらせてみるのはいかがでしょう。当然うまくいかないでしょう。でも一日目より二日目、というように間違いなく能力は上がります。チャレンジさせてみてください。

次に、「視写」すること。図書館も閉まっていて、読書もままならない中、お勧めしたいのが「視写」です。たとえば「天声人語」のようなコラムをノートに写す。社説でもいいですね。もちろん、本でも構いません。保護者の皆さんが「これはいい」と思う文章があれば、それを写す。視写の効用は漢字を覚えるのもさることながら、実は文章力の向上にあります。言葉の使い方、文のリズム、句読点の位置など、知識として伝えることは難しいのですが、視写することで「何となく」身に付いていきます。いったん身に付いた文章力は抜け落ちるものではないですから、一生モノの力になると思います。

■インターネットを利用した課題について

本日、お子様には教科書、副教材と共に、この休業期間中の学習課題もお渡ししています。その中に、インターネットを使用した教材の紹介もしています。この間、様々なコンテンツについて私どもも研究をし、良質な教材もあることを改めて知ることができました。これらを有効に活用でれば、かなりの効果が期待できると思っておりますが、一方でご家庭にこれらの教材を使用できる環境がない場合もあるでしょうし、厳密にいえば回線の使用についてはご家庭の負担となってしまう事情もあります。従ってこれらについては、あくまでも「宿題」ではなく、推奨教材の扱いですので、ご理解いただきたく存じます。